



埋文だより

第89号

令和4年 10月31日発行

石刀 (鹿屋市)

朱色の注口土器 (始良市)



獣形勾玉 (南さつま市)



現在上野原縄文の森では、開園20周年記念 64回企画展「南の縄文文化 ～縄文人の心を探る～」を開催しています。

「北の縄文文化」の、遮光器土偶などとともに、「南の縄文文化」を代表する、1万3千年以上前の縄文時代草創期の土器や、翡翠製の獣形勾玉、文様が施された石刀、赤色の注口土器など、本センターが収蔵する県内各地の出土資料も多数展示されています。

本企画展は11月23日(水)まで行われます。これから紅葉が美しい季節になります。ぜひ上野原縄文の森にお越しください。

目次

- ・ 上野原縄文の森開園20周年企画展…………… 1
- ・ 発見！発掘速報…………… 2
- ・ 新刊報告書紹介…………… 3
- ・ ワクワク考古楽授業支援（出前授業）…………… 4
- ・ かごしま遺跡フォーラム2022…………… 4
- ・ 河コレ遺跡めぐり…………… 5
- ・ 夏休みにパワーアップ！夏期研修講座…………… 6

発見！ 発掘速報

はいぶつきしゃく

今年度、県内各地で発掘調査を行っています。埋蔵文化財センターの発掘調査成果の一部を紹介します。

廃仏毀釈で失われた寺院の発掘調査 —照信院跡—(曾於郡大崎町)—

しょうしんいんあと



6月に「照信院跡」(現：熊野神社)の発掘調査を行いました。江戸時代まで南九州最大の修験道場として君臨しますが、明治時代の鹿児島島の激しい廃仏毀釈で破壊されました。

発掘調査では、回廊の一部を示す可能性のある溝や、玉砂利状の小礫、一石一字経の可能性のある小石の詰まった土坑など、仏教寺院との関わりが想定される遺構が発見されました。遺物では、密教や神仏習合に関係する懸仏の一部である銅製品の華瓶も出土しています。



溝跡と遺物出土状況

何のため？逆さまに埋められた土器出土 —立塚遺跡—(鹿屋市吾平町)—

たちづか



鹿屋市吾平町麓にある立塚遺跡は、吾平道路改築事業に伴い、令和2年度から発掘調査を行っています。

これまでの調査で、縄文時代晩期から弥生時代前期と古代の遺跡であることがわかっています。令和4年度の調査は、古代の遺構の調査から始まりました。昨年度の調査でも見つかった、畑の畝跡だと考えられる細長い溝状の遺構が多数見つかっています。また、建物の柱穴や杭の痕と考えられる遺構が150基以上見つかっており、そのいくつかは、長方形に規則的に配置されており、2棟の掘立柱建物跡が確認されました。その他、9世紀後半頃のものと考えられる土師甕を埋設した遺構も見つかっています。現在、縄文時代晩期から弥生時代前期の調査を行っており、刻目突帯文土器や管玉などの遺物が出土しています。



逆さまに埋められた土師甕

古墳時代のムラか？建物跡多数発見 —名主原遺跡—(鹿屋市吾平町)—

みょうずばる



名主原遺跡は、鹿屋市吾平町下名に所在します。

今回の調査区の隣接地を平成15・16年度に旧吾平町教育委員会が調査しており、古墳時代前期の集落跡や古墳時代後期の墓域が確認されていました。

今回の調査でも、古墳時代前期の堅穴建物跡や溝状遺構などが発見されており、集落の広がりが明らかになってきました。堅穴建物跡は、隅丸方形のものや花卉形のものも確認されています。方形の堅穴建物跡は、隅に土坑を持つものや東側に入口と考えられる施設をもつものが多く、ある程度規格性をもって堅穴建物が構築されていたことがうかがえます。また、集落の中には、完形もしくは甕形土器の脚部を打ち欠いた土器が集中して出土する地点があり、中には甕形土器が入れ子の状態で出土したものもあります。そのような出土状況からこの地点が集落内の祭祀の場であったことが想定されます。



埋設されていた壺形土器

隣接地の調査成果も含め検討を進めることで、当該期における南九州の集落様相の解明が期待されます。

新刊報告書紹介

昨年度、県立埋蔵文化財センターでは6冊の発掘調査報告書を刊行しました。前号に引き続き2つの報告書についてご紹介します。

本来の鹿児島城の姿とは ー鹿児島城跡（鹿児島市城山町・山下町）ー



平成26年度～30年度、令和2年度の発掘調査の成果を記録した鹿児島城跡の調査報告書です。鹿児島城跡では、今日まで度重なる建物の焼失や再建、石垣の崩落や修復が繰り返されてきました。近年では、石垣のずれや亀裂等がみられるようになっており、史跡の保全を目的として平成24年度から平成26年度まで、石垣の現況調査、石垣保全測量等の鹿児島城跡の石垣整備事業を実施してきました。この結果を受けて、必要な箇所については修復工事を内容とした鶴丸城跡保全整備事業が実施され、それに伴い発掘調査が行われました。

部分的な発掘調査でしたが、能舞台跡のうぶたいあとや外御庭跡いぜきの井堰を伴う堀、本丸内御庭の庭園状遺構が確認され、鬼瓦をはじめとする瓦や陶磁器類等、江戸時代の城内の様子を物語る遺物が多量に出土しました。

これらの調査結果から、これまで知られていなかった鹿児島城の城としての機能・構造を解明することができました。



黎明館敷地内での発掘調査の様子



出土した多数の瓦

長年の鹿児島城跡調査の総括報告書 ー鹿児島城跡（鹿児島市城山町・山下町）ー

鹿児島城跡は、令和元年から新たに国指定史跡を目指すための発掘調査を実施しました。

本書は、令和元年度～3年度にかけて文化庁の国庫補助事業「鶴丸城跡保全整備事業」に伴って実施した、国指定史跡を目指すための発掘調査の記録と、既存の鹿児島城跡の発掘調査・文献調査をまとめた総括報告書です。

調査では、おおてぐちあと大手口跡で絵図に描かれた建物に関連するつばちぎょうつばちぎょうぬのちぎょうぬのちぎょうからごもんあとからごもんあと石列や坪地業・布地業、唐御門跡で礎石が確認されるなど大きな成果が得られました。

これまでの多様な調査成果がまとめられた2つの報告書は、鹿児島城跡の本来の範囲や城としての機能・構造を解明することができました。また、鹿児島城に関する文献・絵図等を裏付ける基礎資料として今後の研究に活かされるものと思われます。



御楼門付近の発掘調査の様子

ワクワク考古楽授業支援（出前授業）

～校区の遺跡と歴史を学ぶ～

県立埋蔵文化財センターでは、県内の小・中・高校に本センター職員が出向いて、発掘された本物の土器や石器などの資料を活用し、授業を行う「ワクワク考古楽」授業支援（出前授業）を行っています。今年度は10月現在で小学校5校、中学校1校、の計6校で実施しました。

志布志市立泰野小学校では、校区内にある京ノ峯遺跡きょうのみねの説明や、縄文時代の土器・石器に触れることを通じて、地域の歴史への興味や関心を高めてもらいました。

始良市立山田小学校では、学校の近くにある火山の跡である米丸よねマールや住吉池があり、縄文時代に噴火があったことや、学校近くには前田遺跡まさきさぼるや木佐木原遺跡などの遺跡があり、噴火後に人々が暮らしていたことを学習しました。

本県は離島が多く、上野原縄文の森や県立埋蔵文化財センターから遠距離で、直接見学に行く機会がない子どもたちも少なくないと思います。そのような子どもたちに、本物の土器や石器に触れ、郷土の歴史や文化に興味・関心を持ってもらうことが、「ワクワク考古楽」授業支援の大きな目的です。今年度も引き続き実施しておりますので、ぜひ利用していただければと思います。

「ワクワク考古楽」の詳細は、埋蔵文化財センターホームページ（<https://www.jomon-no-mori.jp/bunkazai-center/seinan/>）をご覧ください。



志布志市立泰野小学校での授業の様子

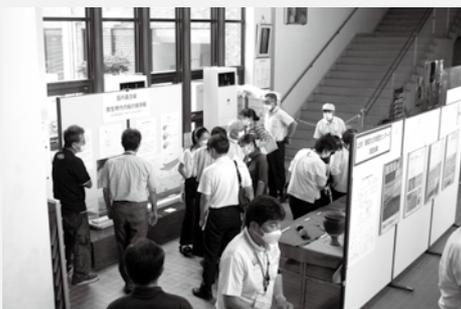


始良市立山田小学校での授業の様子

かごしま遺跡フォーラム 2022 in 南さつま市

7月9日に南さつま市の金峰文化センターで、「第9回かごしま遺跡フォーラム 2022」を開催しました。

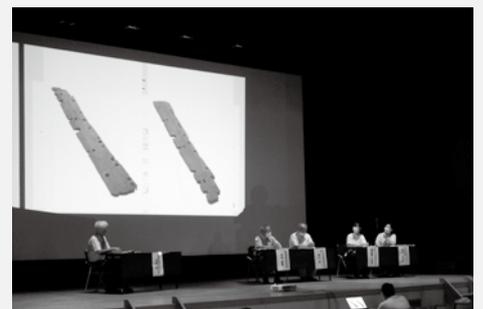
今回は、令和3年3月に開通した国道270号宮崎バイパスの工事に伴って、平成18年度から平成29年度まで発掘調査を行った「中津野遺跡」とその周辺をテーマに、国内最古級の弥生時代前期後半げんそくほん（約2,500年前）の船の一部（舷側板）や、今日までこの地域で調査された遺跡・遺物から分かってきた万之瀬川流域の歴史的特性を紹介しました。



パネル・遺物展示の様子



講演の様子



パネルディスカッション

河コシ遺跡めぐり

河口貞徳氏の歩んだ遺跡

⑥黒川洞穴（日置市吹上町）

かわぐちさだのり

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、県考古学会の会長を長年つとめられた故河口貞徳氏の寄贈資料を整理・活用する事業に取り組んでいます。『埋文だより』では、これまで河口氏が取り組んだ代表的な遺跡調査を振り返り、貴重な遺物や発掘当時の様子等を紹介したいと思います。みなさんもぜひ遺跡のあった場所を訪れて、先人の暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか・・・。



黒川洞穴は、日置市吹上町に所在します。鹿児島市街からだど、谷山から県道 20 号鹿児島加世田線を東進，途中の丁字路で，県道 22 号線を吹上方面に直進します。丁字路から 3 km ほど進むと右折して県道 291 号松元川辺線を進みます。そこから 4 km ほど進み，県道 296 号田ノ頭吹上線を東進，3 km ほど進むと左手に黒川神社の鳥居と遺跡看板が見えてきます。そこから徒歩で 150m ほど進むと 2 つの洞穴があります。

黒川洞穴は北側に二俣川が西流する標高 80m ほどのシラスと凝灰岩でできた斜面にあります。洞穴は東西に並んで 2 つあり，西側の洞穴は，入口幅 13.3m，高さ 6 m，奥行はかなり深く，落盤のため不明，東側の洞穴は入口幅 11m，高さ 4.35m，奥行 8.4m あります。

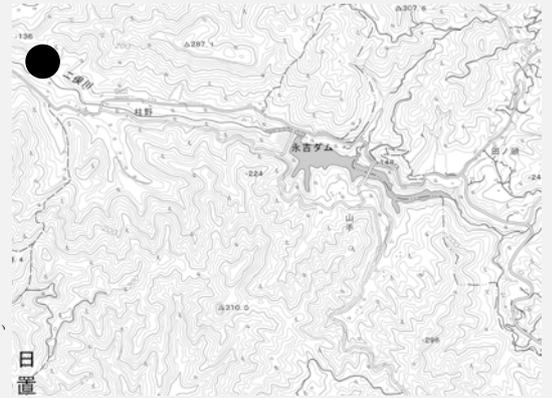
黒川洞穴は 1952（昭和 27）年に，地元の小学生が貝殻を見つけて，坊野小学校の先生に持って行ったのがきっかけでした。その後先生から河口氏に連絡があったことで遺跡として発掘調査が行われました。その後 1964・65（昭和 39・40）年に延べ 14 日かけて東側洞穴の調査が行われ，1967（昭和 42）年に 11 日間かけて西側洞穴の調査が行われました。

調査の結果，遺構は炉跡，土坑，土坑墓が発見され，土坑墓からは人骨が出土しました。人骨は 25～30 才の女性で，土坑の隅には標石が設けてありました。ただ不思議な点があり，骨盤が胴部の下に，尾椎骨が頭部の下に移動していました。かき乱された形跡がないことから，死後腰部を切り取って，土坑の底部に置き，その後遺体を埋葬したようです。なぜこのような埋葬方法をしたのか分かりませんが，何か特別な意図を持って埋葬したのでしょうか。

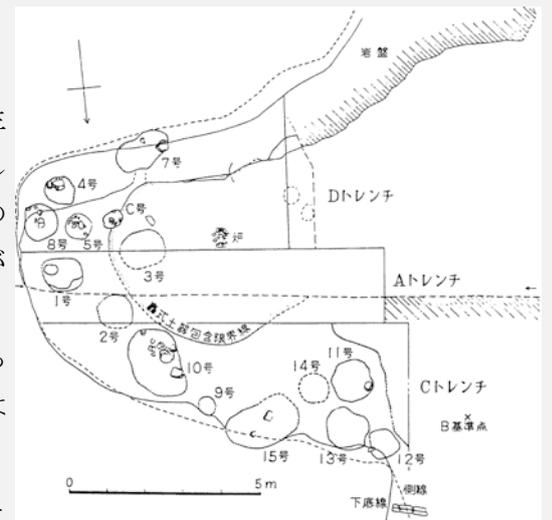
遺物は大量の貝殻や獣骨とともに縄文時代前期から弥生時代の土器・石器・骨角器等が出土しました。中でも縄文時代晩期の土器は現在黒川式土器と呼ばれ，黒川洞穴が標式遺跡です。その後九州各地で黒川式土器が見つかり，縄文時代晩期の九州を代表する土器になりました。

最初に貝殻を拾って先生に持って行った小学生は，このような重要遺跡の発見のきっかけになったとは夢にも思わなかったことでしょう。

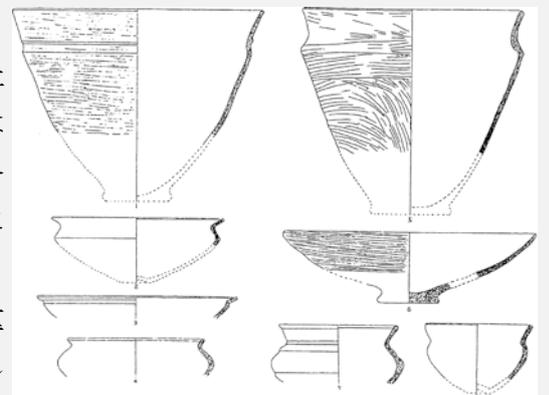
みなさんの周りにも，ひょっとしたら将来の大発見に繋がるようなものが眠っているかもしれませんね。



黒川洞穴位置図



東側洞穴の遺構配置図



黒川式土器実測図

夏休みにパワーアップ！ 夏期研修講座

県立埋蔵文化財センターでは、学校の先生方や市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした研修講座を毎年開催しています。今年度も、7月から8月にかけて、主に以下の内容で講座を開催し、様々な研修や体験活動を行いました。

・フレッシュ研修・地域体験研修・パワーアップ研修・先生のための考古学講座

8月9日・10日に、フレッシュ研修・先生のための考古学講座を実施しました。

所内見学や土器洗い、土器接合、拓本といった整理作業の業務体験を通して、埋蔵文化財に関わる仕事について理解を深めました。

7月28日、8月4日にパワーアップ研修、8月22～24日には地域体験研修を行いました。

研修では、学校教育での文化財活用に関わる講習のほか、埋蔵文化財センターと上野原縄文の森それぞれの業務と役割や、遺跡にみる鹿児島の歴史や文化についての講義、センター業務の体験活動、火起こし、アクセサリ作り等、学校教育や学習活動に活かせる研修を行いました。



所内見学の様子



火起こし体験の様子



土器の接合作業の様子



拓本作業の様子

埋蔵文化財専門職員養成講座

市町村教育委員会の職員の方々を対象とした講座で、7月21～22日に「埋蔵文化財基礎講座」、8月19～20日に「技術講座(基礎技術)」を開催しました。

技術講座では、発掘調査や整理作業で、現在直面している課題を取り上げ、発掘調査の進め方や^{へいばん}平板を用いた遺物取上げの方法、報告書作成の方法などについて研修しました。



現場見学の様子



報告書作成業務に関する研修



平板による実測の研修

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

(現在新型コロナウイルス感染症予防のため、整理作業の見学は休止しています。)

なお、当センターのホームページは、鹿児島県(<https://pref.kagoshima.jp/>)から入るか「上野原縄文の森」で検索してください。

また、フェイスブックは右側のQRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第89号

発行日 令和4年10月31日
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 〒899-4318 鹿児島県霧島市
 国分上野原縄文の森2番1号
 TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
 URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
 E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp